＜自由記述の主なコメント＞

■　肯定的な意見

○　いわゆる「文化系」と「理科系」の壁もより容易に超えられるとより良いです。例えば、私は音楽に関心がありますが、心理学や物理学、文化学や哲学が共働する例をあまり見かけませんだからこそ、率先することでより先端的な音楽研究をリードできると考えます。

○　大まかな概要は素晴らしいと思う。

○　大塚キャンパスで開催されて大変良かったです。大変よく分かった。自分の研究に活かせる。

○　学群 1 年生です。少しだけ背伸びをして先を見に参加させていただきました。学位プログラム導入による従来の専攻の壁を出来るだけ取り除くことは大変興味深く思います。一方で複雑化した授業形態に減りゆく教員が軽い負担で関われるような具体的なシステムも必要になるかとも思われますが、もちろん実践しないと分からないことも多いと思いますので、これからも教育システムの改善をよろしくお願い致します。

○　壁を取り払って、横のつながりが生まれる、とても面白いと思います。というか、それが出来るだろうと思って筑波大学に入学しました。（本音です）本当にこれを望んでいるのでどうぞよろしくお願いします。

○　教育・研究内容の充実に期待をもつことができた。

○　教育学・心理学・障害科学の履修が相互にできる配慮により、より社会に貢献できる研究ができると思います。

○　分野を超えて情報交換や共同研究のようなことを行えるのはとても良いと思う。長期的な改革とても大変だと思いますが頑張ってください。

○　世界遺産学学位プログラムに大変関心がある。この計画がブラッシュアップされつつ、計画的に進行していくことを望む。

○　研究群をまたいでの先生からの指導を受けられることが興味深かったです。

○　これまでは、自分の専門の研究をある意味では縛って研究するしかなかったのが、自分の興味を広げることが許されるのは良いと思う。自分も制度の良さを生かせる研究がしたい。

○　専攻を超えた受講や研究指導が可能になるのは非常に面白くなりそうだと考えています。

○　上手く運用できることを願います。

○　専攻を超えて教員から指導を受けられることは魅力的だと思った。

○　他分野との壁をなくす取組が、筑波大らしいと感じた。”開かれた大学”。

○　非常に興味深い改革だと思うと共に、大学院進学への希望が強くなりました。

○　他領域との敷居が低くなるという意味で学位 P に賛成です。できれば日本やヨーロッパのように徒弟制ではなくアメリカのように総合的に研究力を身につけられるようにしていただけるといいなと思いました。

○　学位プログラム制にすることで学生の視野が広がる可能性を感じた。

■　**課題・要望等**

○　分野の壁を取り払うことに賛成だが、そのことによるデメリットの面には言及されていないので良い面と悪い面の両方から説明を聞きたい。

○　アイデアはとてもいいと思います。このアイデアをうまく回すには達成度目標などを公平な物にする事も重要だと思いますので、良いバランスになることを期待しています。

○　取得したいと考えていた学位が変更されることが残念。従前の学位を残して欲しい。

○　あまりにも授業を括って、0〜2 人の授業をなくしてしまうことはニッチな要望に学校が応えられないということになり、学生の満足度が低下してしまうのではないか。

○　そもそも他専攻の先生から指導を受けたいと考える人は多かったのか？

○　（コンピテンスについて、）学業以外の活動の評価基準はどうなるのか。今まで見ていなかった項目まで教員は考慮しなければならないために負担がかかるのではないか？

○　企業へのニーズだけでなく、「基礎研究」など社会的意義のある学問を疎かにしないでほしい。

○　入試がどうなるのかも情報が欲しいです。(2020 年入学の場合、2019 年の入試変更点など)

○　学群の授業でもそうだが、専門知識がない者が専門科目を履修しており、授業進度レベルが落ちることが考えられる。そのため他群の授業をとるには履修前にレポートやテスト等で知識を問う必要があると思った。

○　学類が学際的になることは良いと思うが、大学院は自分の興味のある分野の研究に特化して集中できる期間だと考えていてそこに院進の魅力を感じていたので、学際的な履修が必須になってしまったりするのはすごく残念だと思った。希望する人だけ選択できるようにしてほしい。

○　研究群という大きな枠組みにすることで、組織の意向をまとめるのに多くの手続きが必要になるのではないか。それによって、大学の外の組織とのコミュニケーションが滞るのではないか。

○　個人的に大学院は専門分野をより深く突きつめる場所だと考えている。負担軽減のための改組は理解できるが、今までの専門性が確保できるのかは疑問に思う。研究類・学位プログラム内にサブプログラムを設定する等の対応を行い現行の専門性が担保した形で改組するのが妥当と考えている。

○　材料工学の分野は医療分野への応用が考えられるが、3 研究群制ではそこのつながりが見られない、理工系（特に物性）と医学系との連携は必要であると思う。

○　専門学位は新しい学位系統だと思うので就職するときに不利にならないような周知や私たちは説明しやすい環境をつくっていただければと思います。

○　現在、特定の指導教員や、領域等の専攻以下の単位の学生の履修のみを想定した授業がある。内容や経験等で一定の制限が必要な場合があると思うが、そのような授業をどう門戸を開くのか。

〔学生アンケート調査票様式〕

筑波大学の大学院構想に関するアンケート

筑波大学在学生の皆さんへ

本学大学院では、2020(平成 32)年 4 月から、研究科・専攻といった組織体制を基盤にした日本の従来型教育システムから、国際的通用性のある「学位プログラム制（学位を与える課程)」へ移行する準備を進めており、そのために、大学院組織の改組再編を予定しています。具体的な構想内容はスライドのとおりです。

この新しい大学院構想について、2020 年度以降に、大学院課程（修士、博士前期・後期、一貫制博士、3 年制博士）への進学を目指す学生の皆さんの意見をお聞かせいただき、魅力ある大学作りのための参考とさせていただきたく、アンケートを実施します。積極的なご協力をお願いいたします。

なお、本アンケートは、文部科学省へ提出する書類の中で、大学院改組に向けたデータとして活用するものとし、その目的以外に使用することはいたしません。

問１　あなたの所属をチェックしてください。

□１ 人文・文化学群、　□２ 社会・国際学群、　□３ 人間学群、　□４ 生命環境学群、
□５ 理工学群、　□６ 情報学群、　□７ 医学群、　□８ 体育専門学群、　□９ 芸術専門学群、
□10 人文社会科学研究科、　□11 ビジネス科学研究科、　□12 数理物質科学研究科、
□13 システム情報工学研究科、　□14 生命環境科学研究科、　□15 人間総合科学研究科、
□16 図書館情報メディア研究科、　□17 教育研究科、　□18 グローバル教育院

問２　あなたの学年をチェックしてください。

□１ 学群 1 年、 □２ 学群 2 年、 □３ 学群 3 年、 □４ 学群 4 年、 □５ 大学院(修士、博士前期)1 年
□６ 大学院(修士、博士前期)2 年または博士後期 1～3 年、 □７ その他（科目等履修生、研究生等）

問３　学群 1～3 年次生の方のみお答えください。

本学の新しい大学院構想を踏まえた上でお答えください。
あなたは卒業後（2020 年 4 月以降）に、大学院への進学を考えていますか。

□１ 本学大学院（修士、博士前期、一貫制博士）への進学を考えている
□２ 国内の他大学院（修士、博士前期、一貫制博士）への進学を考えている
□３ 海外の他大学院（修士、博士前期、一貫制博士）への進学を考えている
□４ 学群卒業後は、進学せず就職を考えている

問４　問３で「1 本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。

進学を希望する新しい組織（研究類（仮称））にチェックしてください。（複数選択可）

□ 人文社会科学研究類	□ ビジネス科学研究類	
□ 数理物質科学研究類	□ システム情報工学研究類	□ 生命地球科学研究類
□ 人間総合科学研究類		

問５　問３で「1～3：進学を考えている」という方に質問です。

あなたは修士（博士前期）を修了した後に、博士後期への進学を考えていますか。

□１ 本学大学院（博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入）への進学を考えている
□２ 国内の他大学院（博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入）への進学を考えている
□３ 海外の他大学院（博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入）への進学を考えている
□４ 博士後期への進学は考えていない

問６　学群４年次または大学院（修士、博士前期）１年次生の方のみお答えください。

本学の新しい大学院構想を踏まえた上でお答えください。

あなたは卒業（修了）後（2020 年以降）の進路をどのように考えていますか。

□１　2020 年以降（修士取得後）、本学大学院（博士後期、3 年制博士等）への進学を考えている

□２　2020 年以降（修士取得後）、国内の他大学院（博士後期、3 年制博士等）への進学を考えている

□３　2020 年以降（修士取得後）、海外の他大学院（博士後期、3 年制博士等）への進学を考えている

□４　2020 年以降（修士取得後）、就職を考えている

□５　学群卒業後に、進学せず就職を考えている

問７　問６で「1 修士取得後、本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。

進学を希望する新しい組織（研究類（仮称））にチェックしてください。（複数選択可）

□ 人文社会科学研究類	□ ビジネス科学研究類	
□ 数理物質科学研究類	□ システム情報工学研究類	□ 生命地球科学研究類
□ 人間総合科学研究類		

問８　筑波大学の新しい大学院構想について伺います。

2020 年４月からの新しい大学院構想について、考えを聞かせてください。

□１　非常に関心がある、　□２　関心がある、　□３　ある程度関心がある

□４　あまり関心がない、　□５　関心がない

問９　問８で「１非常に関心がある、２関心がある、３ある程度関心がある」のいずれかを選択した方のみお答えください

本学の大学院構想の中で、あなたが関心を持った項目にチェックしてください。（複数回答可）

□１　学位プログラム制[*1]へ移行すること

□２　他の国内大学と比較しても新しく革新的な取組であること

□３　学位プログラムの効果的運用のために、新しい組織（研究群・研究類（仮称））編成を行うこと

□４　新組織の特性を活かし、他分野教員の副指導や、分野を越えたゼミへの参加等が可能になること

□５　コンピテンスが設定され、修了時に身につく能力が明確化されること

□６　新組織の単位で共通科目が設定され、幅広い関連分野が学べること

□７　新しいことに取組みつつも、今の専攻の良いところは維持されること

□８　新たな学位系統として「専門学位」を設定すること

□９　その他（　　）

*1　学位プログラム制とは、「人材養成目的とそれに相応しい学位を設定し、それに応じた修得予定の知識・技能及び能力、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を明確化し、学生の視点に立って教育プログラムを体系的に構築すること。修得した学生が目標に到達したことを質保証する」ことです。

ご意見等あればお願いします（自由記述）

以上です。ご協力ありがとうございました。　　筑波大学 教育担当副学長

参考

学生アンケート実施時に用いた説明資料

（平成 31 年 2 月時点）

大学院受験希望者向け説明会資料（2018年12月～2019年2月）

筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学大学院の教育改革

-学際性と国際性に対応する学位プログラム制へ-

（構想案）

筑波大学特命教授・学長特別補佐　沼田　治

IMAGINE THE FUTURE.

本資料の内容は、現時点の構想段階のものであり、今後変更する場合があります。
（2019年度に文部科学省への設置申請手続きを行う予定）

筑波大学の使命

建学の理念、
「変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発」
この理念の下に改革を推進する。

改革のビジョン

「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出」を目指す世界的な教育研究拠点として、
あらゆる壁（国境、学問分野、学内組織、機関等）を取り払い、絶えず新たな学問領域を切り拓く研究型総合大学として社会に貢献する。

第3期中期目標期間（2016～2021年度）において、
「学際性」と「国際性」を両輪とし、大学のグローバル競争力の強化と、学生本位の視点に立った教育のための環境整備を改革の柱とする。

改革の方向性

1. 産業界等、社会ニーズ

「高等教育に関するアンケート(2018年4月17日:経団連実施)」より

技術革新が急速に発展する中、自らの問題意識に基づき課題を設定し、主体的に課題を解決する能力を持つ人材の育成が求められている。

そのために、大学は教育改革により、
「イノベーションを起こせるリーダー人材」を育成すべきとの意見が多い。

また、今後の大学のあり方や規模については、大学ごとの特色を打ち出し、優秀な外国人教員を招聘する等、
「大学の特色を活かした多様な教育と、様々な学生を受け入れる体制を整備すること」が求められている。

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE. 3

2. 社会ニーズを踏まえた2020年度からの構想(案)

＜学位プログラム制への移行 その1＞

組織中心の教育から、学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力が明示され、それを修得するように体系的に設計された「学位プログラムに移行」する。

学位プログラムとは、
学位に相応しい教育課程の編成が、

1. 人材養成目的
2. ディプロマポリシー　(DP; 卒業認定と学位授与の方針)
3. カリキュラムポリシー　(CP; 教育課程編成と実施の方針)
4. アドミッションポリシー　(AP; 入学者受け入れの方針)

に沿って体系的に構築され、
修了時に身につく知識・能力(コンピテンス)
が修得できるよう設計された教育プログラム である。

4

人間総合科学学術院

＜学位プログラム制への移行 その2＞

まず、硬直した縦割り組織中心の教育から脱却するために、大学院組織の改組再編を行い、「教育組織」と「教員の所属組織」を分離する。

具体的には、現在の「8研究科・83専攻」→「3研究群（研究科相当）・6研究類（専攻相当）」に組織を大括りし、必要な学位プログラムに適切な教員配置を行うことで、学生により良い教育を提供する。

これにより、

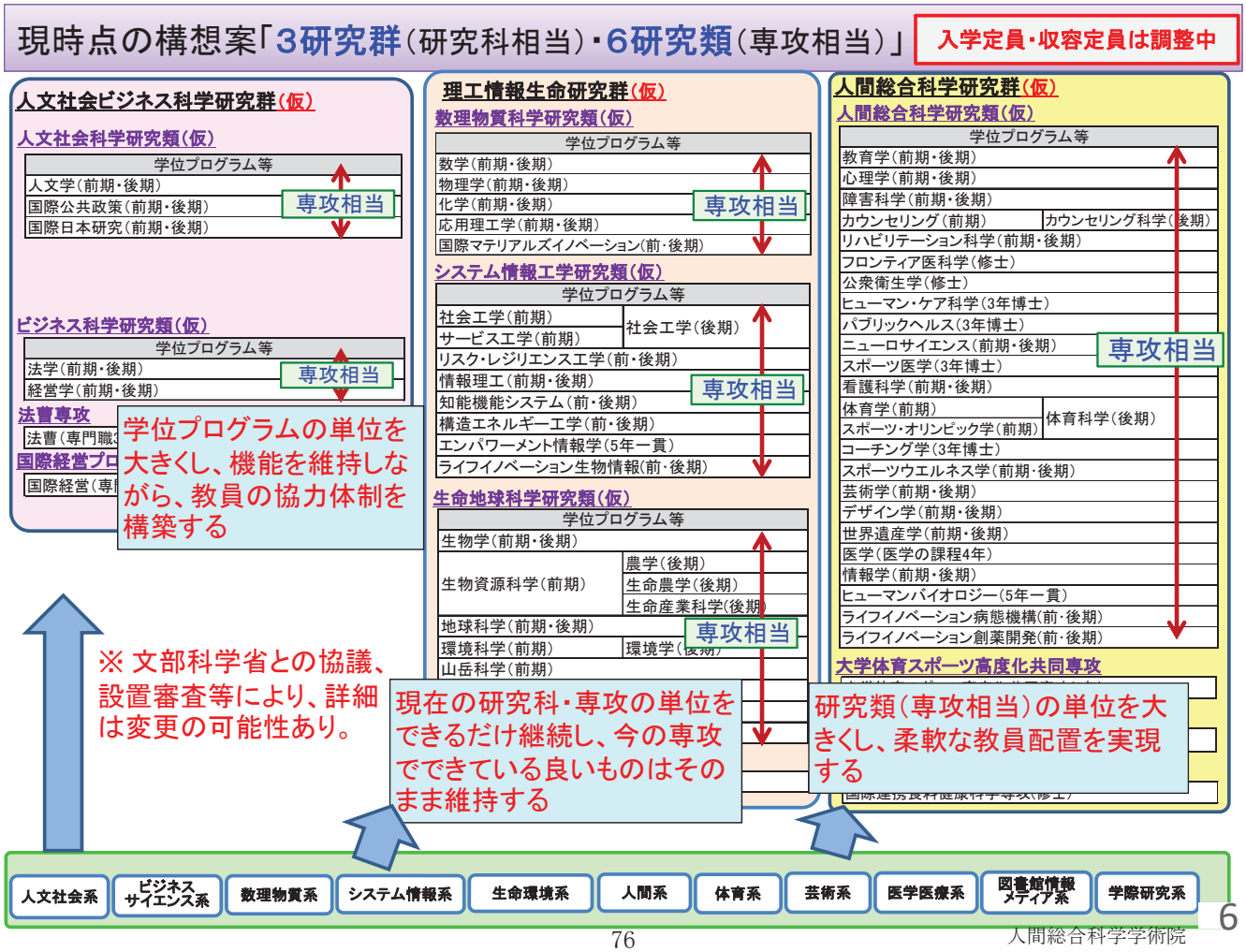
・学位に相応しい教育課程に整理するため、「一学位・一学位プログラム」となる。

・現在、専攻の中で複数の学位を出しているところは、学位の一本化、もしくは複数の学位プログラムに分ける等の対応をしている。（p21-22を参照）

「教育組織」は、「3研究群（研究科相当）・6研究類（専攻相当）」

「教員の所属組織」は、11個の「系」

（注. 平成30年2月に「学際研究系」が11番目の系として位置づけられた）



現在の構想に至るまでの

本学の歩み（2012～2018年度）

について説明

7

3. 社会の動向を踏まえた本学のこれまでの動き

本学では、経団連のアンケート（2018年4月）で求められているような「イノベーションを起こせるリーダー人材」育成を目指し、2012年から、学位プログラム（学生本位の視点に立った学修の実現）を実施・運営している。

具体的には、博士課程教育リーディングプログラムの公募を機に、学位プログラムの実施・運営を目的として「グローバル教育院」を設置し、「分野横断的な学位プログラム」を開設している。

＜グローバル教育院に置く学位プログラム 2012年度～＞

■2012年度～：ヒューマンバイオロジー学位プログラム（HBP）

■2014年度～：エンパワーメント情報学プログラム（EMP）

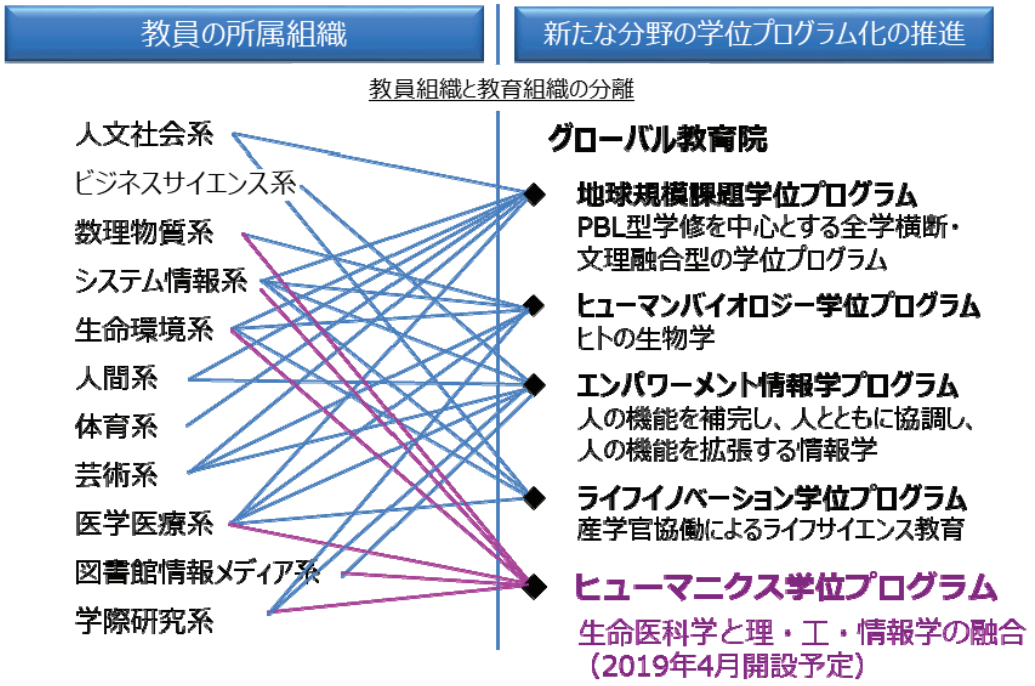
■2015年度～：ライフイノベーション学位プログラム（T-LSI）

■2019年度開設予定：ヒューマニクス学位プログラム（卓越大学院プログラム）

※いずれの学位プログラムも「グローバル教育院（School of Integrative and Global Majors：SIGMA）」に置かれ、複数研究科を横断し複合分野で構成、かつ、全てが英語のみで学位を取得できるプログラムである。

グローバル教育院に置く学位プログラムと系（教員組織）との関係

分野の壁を超えたトランスボーダーな教育研究を実現



＜ 2014年度～ 既存研究科の学位プログラム化を推進 ＞

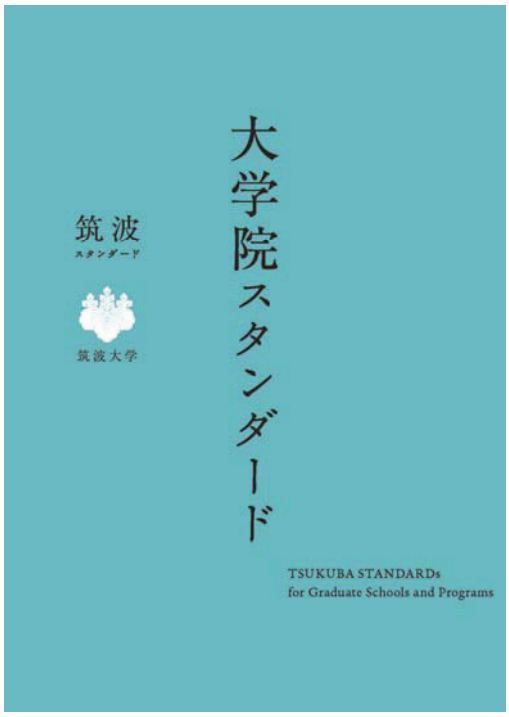
グローバル教育院での実績を踏まえ、2014年度から、学位プログラムの精神を研究科・専攻で、活かす取り組みをした。

■2014年度

「大学院スタンダード」を学位別に整理して、学位毎に人材養成目的と3つのポリシーを明確化した。さらに、専攻の組織を変えずに、専攻の教育課程を学位プログラムにする方針を定めた。

■2015年度～

前年度の方針の下、専攻内の教育課程編成等を学位プログラムの形に整理し、充実させた。



＜ 効果と課題 ＞

2012～2015年度までの取組みで、学内の学位プログラムに対する理解と関心は深まった。

しかしながら、様々な課題に対応するために学位プログラムを編成しようとしても、現在の縦割りの専攻組織では、効果的な編成ができない。

つまり、社会の要請に合わせて新しい学位プログラムを設置しようとしても、組織の壁があると、作り上げるまでに膨大な時間がかかり、スピード感ある対応が難しい。

新たな構想へ

縦割りの専攻組織

11

4. 2016年度からの検討状況（現構想案）

「全学で学位プログラム制に移行する」という目標を掲げ、検討を開始

＜本学の将来構想＞

大学全体で 真の学位プログラム化を実現するため、教育組織の壁を取り払い、大学の特色を活かして様々な教員が集結できることを目指し、「大学院を一研究科相当の組織」を2016年度に構想し、検討をスタートした。

＜将来構想の実現に向けた第一ステップ＞

大学院一研究科構想で検討を進めたが、文科省との相談（2017年）で、現行法令では、大学院の組織は適切な規模である必要があると指摘を受けたため、最終目標に向かう第一ステップとして、3研究群・6研究類の構想（2020年度設置予定）に計画を変更した。

12